

三重県



主 催 : 公益財団法人どうぶつ基金

共 催 : 三重県

協 力 : 伊賀市・名張市・津市

伊賀保健所・鈴鹿保健所・伊勢保健所

(公財) 三重県動物愛護管理センター

地元動物愛護ボランティア

期 間 : 平成27年10月14日～15日 (手術日)



公益財団法人

どうぶつ基金

www.doubutukikin.or.jp

659-0004 兵庫県芦屋市奥池南町71-7 0797-57-1215 info@doubutukikin.or.jp

どうぶつ基金

検索

地域の特徴

【三重県の現状】

区分 自治体名	猫									
	引取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数 のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数 のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数 のうち 幼齢個体
	成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体						
三重県	85	180	220	1,400	34	15	18	17	1,833	1,547

殺処分数の割合（三重県）

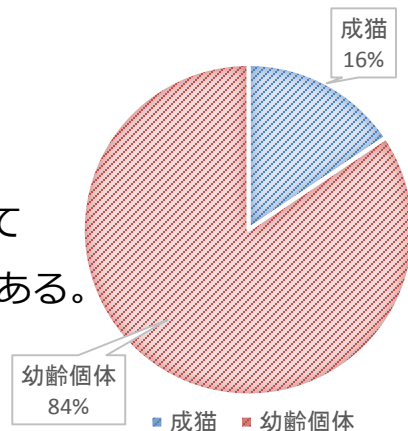
三重県では平成25年度

1年間で1,833匹の猫を殺処分を行っている。

殺処分数のうち、離乳前の幼齢個体が84%

を占めている。したがって、不妊手術によって

84%の殺処分を予防することが可能な地域である。



【事業の特徴とねらい】

三重県が申請者となり、県内の伊賀保健所、鈴鹿保健所、伊勢保健所管轄地区から、さくらねこTNR支援が必要な猫を捕獲し、一挙に手術を行う。支援地区は合計17地区であった。県が旗を振り、さくらねこTNRを県内の保健所と協働し、実施することで、さくらねこTNRの取り組みを水平展開し、飼い主不明猫の減少に向けた取組を進めていくねらいがある。

申請事業の背景・必要性及び目的

1. 申請事業の背景

三重県伊賀保健所において、昨年度よりどうぶつ基金の支援を受けながら、地域住民、動物愛護ボランティア、三重県獣医師会伊賀支部等と連携し、所有者不明猫の適正管理事業として、「地域猫活動」又は「TNR活動」の推進を行ってきた。

この取組を県内の他の保健所に水平展開し、飼い主不明猫の減少に向けた取組を進めていくため、呼びかけを行ったところ、津保健所及び鈴鹿保健所管内の地区からも支援の要請があったため、当該地区の所有者不明猫の不妊・去勢手術等も実施することとなった。（申請書より）

2. 必要性及び目的

- (1) 保健所への引き取り、殺処分の回避
 - (2) 猫の糞尿等による生活環境が損なわれる事態の回避
 - (3) 「地域猫活動」又は「TNR活動」の周知と理解
- （申請書より）

三重県からの申請を受け「さくらねこ一斉TNR無料不妊手術」を三重県にて実施することとなった。



手術会場及び猫保管場所

手術会場：人権生活環境部環境政策課環境センター

猫の保管：各保健所等



手術会場の様子

捕獲器及びケージ台数

捕獲器所有者	使用台数
どうぶつ基金	50
三重県動物愛護管理センター	11
伊賀保健所	4
名張市	8
ボランティア	20
合計	93

作成者（材料負担も含む）	台数
鈴鹿保健所	5
津保健所・津市・(公財) 三重県動物愛護管理センター	10
伊賀保健所	12
名張市	4
ボランティア	28
地域住民	57
合計	116

スケジュール

10月14日（水）

8 : 3 0	会場到着・設営
9 : 0 0	朝礼
9 : 1 0	手術開始
1 2 : 0 0	昼休憩
1 3 : 0 0	手術再開
1 7 : 3 0	手術終了
1 7 : 5 0	撤収完了・終礼

10月15日（木）

8 : 5 0	朝礼
9 : 0 0	手術開始
1 2 : 0 0	昼休憩
1 3 : 0 0	手術再開
1 6 : 3 0	手術終了
1 7 : 0 0	撤収完了・終礼

協働人員数（手術日）

期間	どうぶつ 基金	三重県 職員	伊賀市 職員	名張市 職員	津市 職員	大紀町 /四日 市職員	（公財） 三重県動 物管理セ ンター	ボラン ティア	合 計
10 月 14 日	スタッフ 3名 獣医師 7名	5名	6名	2名	2名	1名	3名	7名	3 6 名
10 月 15 日	スタッフ 3名 獣医師 6名	4名	5名	2名	1名	1名	2名	6名	3 0 名
延 べ	19名	9名	11名	4名	3名	2名	5名	13名	6 6 名

手術集計

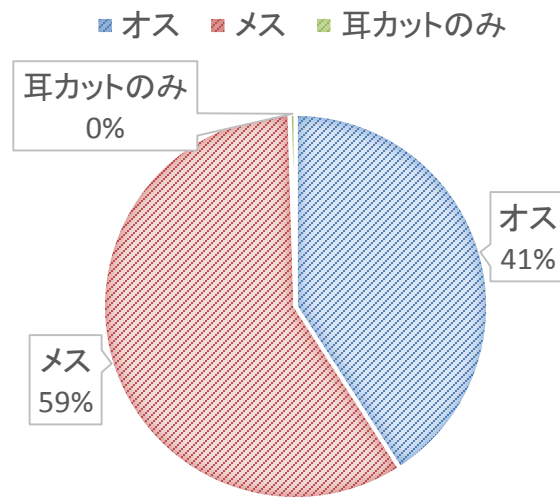
TNR数

	オス	メス	耳カットのみ	計
10月14日	45	64	0	109
10月15日	38	55	1	94
計	83	119	1	203

全頭に実施

ノミ・ダニ・回虫の駆除（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液50cc

手術割合（三重県）



獣医師



山口武雄獣医師長(どうぶつ基金顧問)



日下部獣医師



山口亮獣医師 (ボランティア参加)



井村獣医師 (ボランティア参加)



青山獣医師 (ボランティア参加)



井上獣医師 (ボランティア参加)



辻獣医師 (ボランティア参加)
三重県獣医師会伊賀支部長



青島獣医師 (ボランティア参加)
ダイゴペットクリニック院長

手術会場の様子



1. 朝礼

手術開始前に、朝礼を行う。



2. 手術準備

管理タグがついた猫を手術会場に搬入し、安定剤、麻酔、抗生剤、ノミ・ダニ・回虫の駆除（レボリューション）を注射や投与していく。



3. ワクチン・抗生剤

全頭にワクチンと抗生剤を打つ。
保健所の獣医師がワクチン作りを担当。

手術会場の様子



4. 耳カット毛刈り・ノミ駆除

手術する前に、みみ先カット（さくら耳）、毛刈りを行う。



5. 不妊去勢手術



6. 各方面からの視察

三重県保健福祉部泉課長を始め三重県各方面から多くの方々が視察に來られた。

手術会場の様子



7. 術後ケア

手術が終わった猫には、補液、目薬、耳掃除を行う。



8. 安静

手術と術後ケアが終わったら、洗浄が完了したケージに再び戻す。



9. 安静

手作りケージに戻されたさくら猫。

猫保護用ケージ職員が手作り

徳之島で考案された、ジャガイモのサンテナをリメイクした手作りケージを参考に、保健所職員や、ボランティアが116箱手作りした。捕獲器よりも外の景色が見えにくくなっているため、猫が落ち着いている。また、麻酔を打ちやすいように工夫されており、創意工夫と猫を思う気持ちが伝わってくるケージであった。



ケージの入り口側写真

三重県獣医師会伊賀支部との連携

三重県獣医師会伊賀支部が平成27年度からどうぶつ基金が実施する「さくらねこ無料不妊手術事業」の協力病院となった。それに伴い、今回の出張手術に、三重県獣医師会伊賀支部長辻獣医師（鴻之台動物病院）が両日ボランティア参加した。また、伊賀支部の動物病院である佐々木獣医師（つつじが丘動物病院）も視察と協力に訪れた。



佐々木獣医師（左）



辻獣医師

三重県獣医師会伊賀支部が平成27年度からどうぶつ基金が実施する「さくらねこ無料不妊手術事業」の協力病院となったことは、地元情報誌「伊賀タウン情報YOU」にも大きく取り上げられた（右画像）。記事詳細は、P.15メディア掲載ページ参照。



▲高松さん

メディア掲載（毎日新聞）

毎 日 新 聞

2015年(平成27年)10月16日(金) 伊賀 三重 26




MAINICHI

新毎日

10月16日(金)

2015年(平成27年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

伊賀
三重

【伊賀】どうぶつ基金 公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県芦屋市)は14、15日、県の依頼を受けて伊賀市治田の市環境センターで、伊賀地域や津市などで捕獲された野良猫203匹に無料の不妊手術を行った。

野良猫の繁殖を防ぐ「TNR先行型地域猫活動」の一環として、同基金が全国で実施。TNRは「Trap」「Neuter」「Return」の略で、野良猫を捕獲し、不妊・去勢手術を施し、元の場所に戻す取り組み。伊賀地域での実施は2度目だが、他市町の

地域猫に不妊手術
県が依頼 殺処分ゼロ目指す

猫も対象にしたのは初めて。伊賀・名張両市のほか、津、亀山、鈴鹿、大紀4市町の住民や保護団体が猫を捕獲。全国のボランティアの獣医師ら6人が手術を担当した。

3年前から無料手術を県などに要望してきた名張市の野良猫保護団体「ひだまりにゃんこ」の高松智子代表は「行政の協力で実現でき、うれしい。今後継続してほしい」と期待する。同基金の佐上邦久理事長は「全国で活動を拡大し、殺処分ゼロを実現したい」と話した。

【広瀬晃子】



野良猫に行われた不妊無料手術
＝伊賀市治田の市環境センターで

メディア掲載 (伊賀タウン情報YOU)

2015年10月24日 Vol.662 10月後半号



伊賀タウン情報ユー

日本ABC協会
日本広告審査機構
日本ポスティング協同組合 加盟
総発行部数 69,655部
伊賀市・名張市 66,006部
奈良県 宇陀市他 2,850部
その他 799部

リフォーム・新築・店舗・外構・家のことはお任せ下さい

テラカド

☎0595-68-6810
名張市つつじが丘北2-45
<http://www.terakado.co.jp/>

編集 株式会社ユー 〒518-0729 三重県名張市南町834-1 ☎0595-62-1551 ㊟0595-62-1550 電子メール you@e-net.or.jp

「どうぶつ基金」の協力病院に

三重県獣医師会伊賀支部(辻勝彦支部長)は、飼い主のいない猫に対する「さくらね」無料手術チケットを発行している「どうぶつ基金」(佐上邦久理事長、本部・兵庫県姫路市)の協力団体として登録した。獣医師会の支部に登録するのは全

全国初 県獣医師会 伊賀支部8病院

国で初めて、29面に「関連記事」このチケットは、同基金が2006年から「TNR先着型地域猫活動(注)」を推進して、行政にも猫の殺処分をゼロにしよう」と、さくらね「無料不妊手術基金」の一として、全国の動物病院へ呼びかけ開始。現在、北海道から九州まで40の動物病院が登録し、年間6千155枚、14年度の業績を「一般ボランティア」と行政「枠に分けて実施手術の印」として猫の片足先を被の花ひらのようにVカットして



▲佐上理事長と握手する支部長(右)

いる。同事業への参加を決めた伊賀支部。伊賀保健所が、仲間役となり、さくらねに同基金との登録が決定し、伊賀、名張市内の8病院が協力病院として参

加するようになった。さくらねから同保健所が行政枠として両市限定の無料手術チケット50枚の交付を受け、この無料手術チケットを使用。残り10月14、15日に伊賀地域で行われた「さくらね」TNR活動作戦で捕えられなかった猫の手術用として使った。

地域猫の殺処分をゼロを実現するためのお手伝いができればいい」と話した。佐上理事長は「獣医師会の支部単位で登録を頂いたことにより、問題解決は飛躍的に進み、全国の獣医師会に波及するのではないかと期待を込めた。

(注)「TNR」先着型地域猫活動。猫問題ある地域で、まず先着して猫の不妊手術(TNR)を行ってにより、さくらねや養育費を減らす。猫問題を根本から解決するための地域猫の進化形と云える。同基金では全国で1万千頭をさくらねTNRをやっていく。



三重県

主 催 : 公益財団法人どうぶつ基金

共 催 : 三重県

協 力 : 伊賀市・名張市・津市

伊賀保健所・鈴鹿保健所・伊勢保健所

(公財) 三重県動物愛護管理センター

地元動物愛護ボランティア

期 間 : 平成27年10月14日～15日(手術日)